（平成 23 年 11 月試験研究業務月報）

試験研究課題：中山間地域等における飼料米の産地成立条件の解明（地域資源循環型耕畜連携を支援するための飼料米及び鶏卵生産技術の開発）　研　究

# 未乾燥で貯蔵した飼料モミ米の給与実証試験

ーモミ米の貯蔵に有機酸が有効ー

畜産センターでは、未乾燥のモミ米に有機酸を添加して貯蔵したモミ米を経時的に追跡調査したところ、9 箇月経過してもカビの発生や成分の変化がなく、低コストで有効な貯蔵技術であることを確認しました。

また、モミ米を 10%混合した飼料を採卵鶏に給与したところ、嗜好性や産卵率、卵質の低下もなく、飼料としても十分利用できることを確認しました。

採卵鶏への給与実証試験と有機酸を添加したモミ米（左下）

畜 産 セ ン タ ー

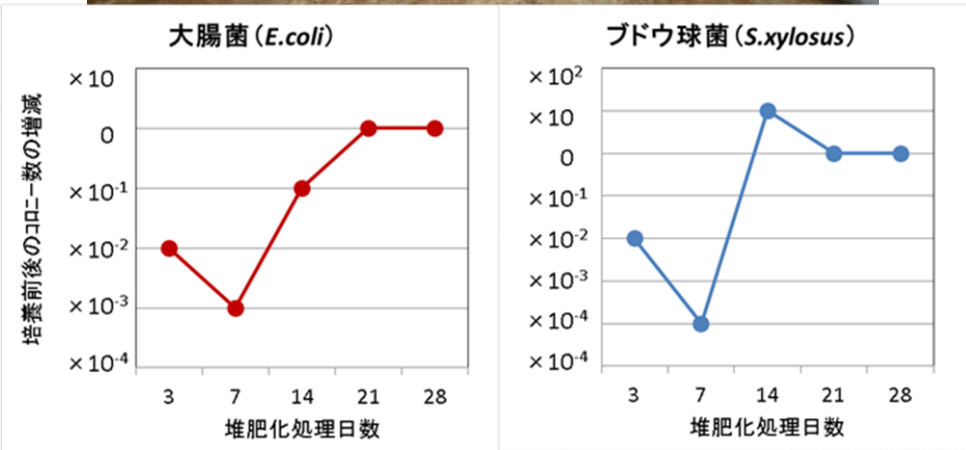
（平成 23 年 11 月試験研究業務月報）
試験研究課題：堆肥の敷料利用に係る評価方法の開発

研　究

# 堆肥を敷料として安全に利用するための評価方法を検討

－入手が不安定なオガクズに変わる敷料材の検討－

畜産センターでは、充分に乾燥した牛ふん堆肥を乳牛の敷料として利用する場合の安全性についての評価方法を検討しています。特に乳房炎の発生予防に着目し、主な乳房炎原因菌の堆肥抽出液における増殖性を経時的に調べたところ、堆肥化処理１週目に最も細菌数が減少することがわかりました。今後は、牛ふん堆肥の吸水・保水性などの評価項目も含め、野外での実証を行います。




試験室で作成した堆肥の抽出液における細菌増殖性

畜 産 セ ン タ ー

（平成 23 年 11 月試験研究業務月報）
試験研究課題：水田作物由来地域未利用資源の飼料化技術の開発

研　究

# 規格外小麦や未利用の小麦わらの飼料化を研究

畜産センターでは、府内の水田約 170ha で栽培されている小麦の「子実」と「麦わら」を飼料化する研究を行っています。

小麦の「子実」は、プロピオン酸添加後長期保存したものを配合飼料に混ぜ、採卵鶏に給与し嗜好性や卵への影響を調査しています。また、収穫後ほ場に放置された「麦わら」は、ロールベーラーで巻き取り、尿素を添加し、保存後和牛に給与したところ、嗜好性も良く粗飼料として充分に活用できることを確認しました。

採卵鶏による小麦「子実」の嗜好性調査

黒毛和種繁殖雌牛による小麦「わら」の嗜好性調査

畜 産 セ ン タ ー

（平成 23 年 11 月試験研究業務月報）

情　報

# 高病原性鳥インフルエンザの防疫対策を強化

11 月 7 日に今シーズン初めて低病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N2)が島根県松江市で回収された死んだコハクチョウから分離されました。これを受け、畜産センター内の池に防鳥ネットを張るとともに、常時実施している鶏舎入口での人や車輌の消毒だけではなく、鶏舎敷地全面の消毒を毎日行っています。

池全面に張った防鳥ネット

ウイルス侵入防止のため鶏舎敷地全面の消毒

畜 産 セ ン タ ー

（平成 23 年 11 月試験研究業務月報）

情　報

# 天候に恵まれなかった自給飼料生産

今年の牧草などの自給飼料生産は、春先や初夏の低温、天候不順による播種の遅れ、台風 12 号による倒伏の影響により、前年比で約２割（約 40 トン）の減収となりました。そこで、来春収穫予定の牧草は、天候不順や異常気象を想定しその影響を緩和するため、幅広い品種の組み合わせで安定した収量が得られるよう作付けしました。

台風 12 号により倒伏したトウモロコシ

畜 産 セ ン タ ー

（平成 23 年 11 月試験研究業務月報）

情　報

# 未来を担う人づくり実践研修を修了

畜産センターでは、一般財団法人「地域公共人材開発機構（京都市）」職員馬場さんの実践研修を約４か月実施し、11 月に終了しました。馬場さんは、酪農を通じて命の大切さを学ぶ酪農教育ファーム活動に強い関心を持ち、実践研修として中丹由良川里山フェスタで「プチ酪農教室」を出展したり、畜産センターを訪れる府民を迎える「ウエルカムボード」の制作などに精力的に取り組みました。

プチ酪農教室で活動する馬場さん

サイロ壁面に完成したウエルカムボード

畜 産 セ ン タ ー

（平成 23 年 11 月試験研究業務月報）

情　報

# 碇牧場が作った「子牛育成マニュアル」実証子牛が高値で取引

子牛を購入する肥育経営者が飼いやすい、粗飼料を食い込んだ子牛づくりのため、関係団体では、「子牛育成マニュアル」による飼養管理を農家に推奨しています。碇高原牧場では、農家に先駆けて、このマニュアルに沿って子牛を育成して出荷したところ、本年の５回の子牛せり市において、市場平均価格よりも高値で取引されました。今後は、「子牛育成マニュアル」を広く普及させ、子牛市場が活性化するよう支援します。

「子牛育成マニュアル」で育てた腹容豊かで発育良好な子牛たち

畜 産 セ ン タ ー
碇 高 原 牧 場

（平成 23 年 11 月業務月報）

情　報

# 牛の放牧が終了

－今年は 235 日間、延べ約 7,000 頭を放牧－

11 月 25 日、碇高原牧場では、時折あられが降る中、２か所の放牧場に残っていた和牛 19 頭を牛舎に収容し、今年の放牧が全て終了しました。

冬場は積雪が多いため、飼育している 174 頭の和牛や乳牛は、牛舎の中で過ごし、放牧場に若葉が芽吹く春を待ちます。

牛舎を目指し放牧場の道路を走る牛

畜 産 セ ン タ ー
碇 高 原 牧 場